

小売業界で唯一 成長続く業態

ドラッグストアの動向

日本チェーンドラッグストア協会（JACDS）は昨年11月に、「ドラッグストア業界研究レポート2014後期」をまとめた。それによると、ドラッグストア業界はJACDSが設立された1999年頃には約2兆円規模だったが、今日においては約3倍の6兆円産業にまで成長している。同レポートでは、「ドラッグストア業界は、長く続くデフレ不況の中にあっても小売業界で唯一成長してきた業態」と強調する。一方、成長の伸びは鈍化してきており、初めてマイナス成長になる可能性があることを指摘し、主因としては、①取り扱いカテゴリーの業態エリアが7割近く、伸び代がない②ドラッグストア商圏の著しい狭小商圏化③再び起こっている業界再編の波④医薬品ネット販売の動きと対応⑤消費税8%導入への現状——を挙げている。

JACDSの「ドラッグストア業界研究レポート2014後期」では、現在の業界再編に関しては、「ドラッグストア

各社における再編の動きが活発になってきている。この動きは業界マーケットが伸び悩む中で、ドラッグストア各

社が資本を集約、集中して規模の大きさをもって対応することを狙ったもの」と指摘。「資本の論理から言って、こうした動きは極めて妥当性があるが、その一方で規模の大きさや思想の異なった企業の集合化することが、むしろ縮小化するマーケットへの対応を困難にする場合が多い。仕入力や資金力だけでは、狭小商圏化や高齢者ニーズに対応できないからだ。いずれにしても、新しい時代の消費構造や消費者ニーズにしっかり対応できる経営構造を持つプロトタイプを作り、徹底した現場力を発揮することが重要となる」としている。

さらに、「地域密着」が今後発展のキーワードになる」との考えを提示。「チェーンドラッグストアの場合、“地域の健康”と言いつつも、本当に“地域”との付き合い方をしてきたかといえば疑問も多い。確かに“医薬品”をどこよりも安く、どこよりも多く売っている

ことから、その一部は実現されているかもしれないが、生活者の健康づくりを地域と共に実現しているとは言い難い」とし、「地域」とどう向き合い、そこに住む生活者の健康を育み、しっかりと収益構造に結びつけることが、ドラッグストア業界やドラッグストア各社の最も大きな課題。大手ドラッグストアのみならず、各地に存在する中小ドラッグストアチェーンの新しい成長の可能性が存在する」としている。

その上で、「このまま衰退の道をたどるのか、これを起点に再び成長業態になるのか、ドラッグストア業界および各社の対応にかかっていると見てよい」との考えを示している。

業界は大きく再編へ

そうした中、具体的な業界再編の動きの一つとして、昨年10月には小売

「より患者のためにできること」

総合的に対応できる薬剤師へ

近隣クリニックからの処方箋調剤と服薬指導、さらには在宅医療の現場にも赴き、在宅患者の血圧のほか、パルスオキシメータを使用した動脈血酸素飽和度（SpO₂）の測定を実施し、それらバイタル情報を担当医に報告する——。大阪府藤井寺市にあるファーマシィ「はーと薬局」で薬剤師として勤務する長江香織さんの日常業務の一コマである。

長江 香織さん

「ファーマシィ」は「と薬局」



いる患者さんがいるとの情報を受け、そこで薬剤師の立場から患者に対応し、問題解決が図れたケースもあるという。「月1回の訪問では、患者さんの生活全般が把握できるわけではありませんが、薬剤師としてできるフィジカルアセスメントを通して、きちんとした服薬管理につなげていきたいです」と展望する。

自身が目標とする薬剤師像は「薬だけではなく、糖尿病など、疾患に合わせた食事療法、運動療法、栄養療法、サプリメントの提案など、総合的に患者さんに対応できる薬剤師になりたいです」と将来を見据える。

一方、薬学生への就職活動では「長

期の実務実習の間に、病院、薬局それぞれの良い面が見えてきます。その中で自分自身が、薬剤師として、何がしたいかを絞っていけば、それに合う就職先が必ず見つかると思います」とアドバイスする。長江さんの場合、実務実習先が、エリアに数軒しかない、まさに地域に必要とされる薬局だった。そこで患者さんとの距離が近いと感じたことが薬局を志望した理由の一つだという。「私自身、OTC医薬品の豊富なドラッグストアにも興味があったのですが、実習を通して調剤薬局の必要性を感じ、より患者さんのためにできることはなにか、ということに真面目に取り組んでいる印象があった今の会社を選択しました」という。

続けて、「大学で習った基礎となる薬の知識が現場ではとても役立ちますが、患者さん目線でその知識を伝えるためにはコミュニケーション能力も求められます」と長江さん。さらに、薬剤師を取り巻く環境の変化が、大学で学ぶ内容の一步先にあることを実感した上で、「現状の薬剤師業務変化にも注視しながら、大学での勉強を頑張っ

長江さんは、2012年3月に近畿大学薬学部を卒業。中国エリアを中心に調剤薬局を展開するファーマシィ（広島県福山市）に入社した。入社後、大阪市内の大病院門前の薬局勤務を経験。現在の薬局に勤めて2年半が経過する。「はーと薬局」では100カ所以上の医療機関から月間約3000枚の処方箋を応需。さらに、近隣の基幹病院からクリニックまでの幅広い在宅医療も手掛けている。

長江さん自身も先輩の薬剤師が取り組んで来た在宅医療の現場を引き継ぐ形で、現在、3軒の担当を任されてい

る。業務は、医療機関から送られて来たFAX処方箋を調剤し患者の自宅まで届けるというもの。在宅現場では、患者の服薬管理や残薬確認、服薬状況や体調などの聞き取りなど個別の患者に合わせた対応が必要になる。

「在宅医療の現場では、薬の話だけではなく、栄養や生活指導など生活全般など多岐にわたります。また、患者さんを中心とした多職種の連携も重要なポイントになります」と長江さん。

地域包括支援センターの専門職会議の場で、痛みがないにもかかわらず、処方されたロキソニンを毎日服用して



PHARMACY
株式会社ファーマシィ

全国10都府県、76薬局展開中

薬局薬剤師の殻を破りたい

一緒に殻を破りませんか？



◆随時受付中◆
・インターンシップ
・薬局見学 etc...
申込・お問い合わせは
QRコードよりアクセス



本社：〒720-0825 広島県福山市沖野上町4-13-27 TEL0120-314-868